

情報公開内容

課題名： Radial scan法を用いたEOB造影MRIによる原発性肝細胞癌の血流評価の有用性の検討

本研究の目的

原発性肝細胞癌 (Hepatocellular carcinoma: HCC) は多血性と乏血性に分類されますが、より悪性度の高い多血性病変が治療対象となるため、病変の血流の程度を正確に評価することは重要です。HCCが多血性であるかどうかは造影CTやMRIの動脈相で評価されますが、動脈相は適切なタイミングで撮影されなければHCCの多血性の評価は難しくなります。このため適切な治療方針の決定のため、手術前などには血流評価のgold standardである血管造影検査が行われますが、血管造影検査は侵襲的な検査であることが欠点です。一方で肝細胞特異性造影剤であるガドキセト酸ナトリウム (EOB) を使用した造影MRI検査は腫瘍検出能が高いため、その有用性はすでに確立されています。しかしながら、EOB造影MRIは従来の細胞外液性造影剤と比較すると造影材量が少ないため、適切なタイミングで動脈相が撮影できないことがあり、ゆえに腫瘍の多血性評価が不十分となる可能性が報告されています。当院ではEOB造影MRIの動脈相をradial scanと呼ばれる方法で撮影しており、この撮像法は他の撮像法(Cartesian scan)と比較し適切な動脈相のタイミングを逃しにくい可能性があります。そこで今回我々はHCCの多血性評価において、radial scanを用いたEOB造影MRIの動脈相の有用性を検討するため、本研究を立案しました。

本研究の対象

2017年6月から2019年6月の間で、広島大学病院にて原発性肝細胞癌精査目的にEOB造影MRI検査が行われ、なおかつ原発性肝細胞癌が手術にて切除された患者さん。

本研究の期間

承認後～2022年3月31日

本研究の意義

本研究は、HCCの多血性評価において、radial scanを用いたEOB造影MRIの動脈相の有用性の検討を目的としています。このため今回の検討結果からradial scanを用いたEOB造影MRIの動脈相がHCCの多血性評価に優れていることが明らかとなれば、被ばくを避けることができないダイナミックCTや侵襲的な血管造影検査を省略できる可能性があり、本研究の臨床的意義は高いと考えています。

研究の方法

本研究ではすでに行われている画像所見や血液検査などのデータを解析します。カルテを調べて調査することが主な調査方法です。調査項目は、患者の性別、年齢、採血データ、画像所見（CT、MRI、PET-CT、血管造影、RIなど）、病理所見、臨床情報（既往歴、現病歴、合併症など）です。

試料・情報の管理責任者

広島大学病院 放射線診断科 教授 粟井和夫

個人情報保護の方法

- (1) 対象患者さんのカルテ、画像に記載された個人情報はすべて匿名化した上で研究に使用しません。
- (2) 学会誌や学会での発表等、調査結果を公表する際、個人情報は一切公表しません。
- (3) この研究で収集したすべての情報は、この研究の目的以外では使用いたしません。
- (4) データは外部と独立したコンピューターで管理し、パスワードによるログイン機能の付加、コンピューターをセキュリティーの厳重な部屋に保管します。
- (5) 収集した患者さんのデータは、研究終了10年後すべてコンピューター上から削除、書類はシュレッダー等で処理した上で廃棄します。

研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても今後の診療などに不利益が生ずることはありません。

問い合わせ、苦情等の窓口の連絡先

広島大学病院 放射線診断科

研究責任者(責任者):教授 粟井和夫

研究責任者(担当者):准教授 中村優子

研究責任者(担当者):医科診療医 赤木元紀

連絡先電話番号:082-257-5257